平成２９年度　政務活動費決算効果報告書

平成３０年４月２０日

府中市議会議長　様

事業所の所在地　府中市府川町３１５番地
会 派 名　　市民クラブ
代表者名　　小川　敏男

次のとおり政務活動による事業実績及び収入支出決算を報告します。

１　事業実績

（１）　事業名　　政務活動

（２）　事業金額　　４００，７３４円

（３）　政務活動の内容、効果等

事業計画に沿って、先進地視察、市政報告会などを実施した。

①先進地視察　３か所視察した。

a　公民連携事業・オガールプロジェクト　岩手県紫波町（オガール）

公民連携事業・オガールプロジェクトの取り組みについて、府中市の活性化の施策の参考にするため赴いた。事業の経緯と理念について、質問したところ、青森の中心市街地活性化の失敗例から学び、地域の実情にあわせた＝身の丈に合った開発を目指しているということだった。

事業の仕組みは、町有地に公共施設を整備し、それ以外の町有地を売却または賃貸し、その賃貸料などを公共施設などの整備費用に充てるというもので、当面、紫波中央駅前に公共施設と民間施設の立地による複合開発を進めており、役場や図書館は、民間施設との複合施設となっている。

詳細は別紙、視察報告書のとおり

b　地域医療・精神医療政策　秋田県大仙市（市立大曲病院）

公立精神科病院のほとんどは、都道府県が経営しており、市立の精神科病院は大曲病院と湯が丘病院の２つだけであり、経営・将来方針の参考とするため、視察に赴いた。

大曲病院はもともと１００床の精神科・神経科の病院だったが、認知症患者の増加を受け、現在、70 床の精神病棟と 50 床の認知症病棟を経営している。認知症患者の入院スペースは特別養護老人ホームと変わらない印象だった。急増する認知症治療に対応するため、湯が丘病院の機能の充実に向け、県や関係機関に協力を求めていく必要を感じた。

詳細は別紙、視察報告書のとおり

c　歴史遺産を生かしたまちづくり　秋田県湯沢市

旧芦品郡役所庁舎(歴史民俗資料館)の移築・活用が検討されており、その参考とするため、雄勝郡会議事堂記念館の保存・活用、庁舎建物保存の経緯、保存活用の今後の方向、文化財としての保存と利用促進の両立について、確認するため視察に赴いた。当時の姿を基本的に維持しながら、市役所別館や図書館として長期間利用されてきたが、現在は市民ギャラリー的な使用で市民の交流スペースとして活用されており、保存と活用が無理なく両立していた。

詳細は別紙、視察報告書のとおり

②市政報告会

１１月１７日に府中市文化センターで市民クラブの市政報告会を開催し、大学誘致、地域医療に関して報告した。参加者は約５０人であった。また、１１月１８日には、上下町民会館でも同様な報告会を開催した。参加者は約２０人であった。

視察での成果を活かし、公民連携、地域医療・精神医療・病院経営、歴史遺産を生かしたまちづくりなどに関しては、議会一般質問・議案質疑において、質問と政策提言を行なった。市政報告会では、市民との情報交換の中で、大学誘致を含めたまちづくりの将来像や医療・福祉のこれからについて、市民が不安に感じていることがよくわかった。

4　その他

2 収入支出決算書　　（単位：円）

収入の部		支出の部	
項　目	金　額	項　目	金　額
政務活動費	360,000	調査旅費	270,930
会派活動費	40,734	広報費	129,804
合　　計	400,734	合　　計	400,734

市の補助金のみの決算でなく、事業全体の決算を記入してください。

決算については、この報告書の様式でなくても結構です。

視察報告書

平成３０年　４月２０日

府中市議会議長　様

会　派　名　市民クラブ

日　　時	平成２９年５月１７日（木曜日）
視　察　先	秋田県湯沢市
視察項目	歴史遺産を生かしたまちづくりについて
参　加　者	小川敏男　水田豊　土井基司
視察内容	旧芦品郡役所庁舎（府中市歴史民俗資料館）の移築・活用が検討されており、その参考とするため、雄勝郡会議事堂記念館の保存・活用、庁舎建物保存の経緯、保存活用の今後の方向、文化財としての保存と利用促進の両立について、詳細を確認し参考とするため、視察に赴いた。 雄勝郡会議事堂は１８９２年（明治25）に落成した２階建て洋風建築物で、１９７５年、秋田県指定有形文化財に指定され、１９８５年に大規模改修工事を行ない、「雄勝郡会議事堂記念館」（議場・常設展示の見学無料。会議やイベント等での利用可、一部は有料）となった。 建設当時の姿を基本的に維持しながら、市役所別庁舎や図書館として長期間利用されてきたが、現在は市民ギャラリー的な使用で市民の交流スペースとして活用されている。
所　　感	利用頻度はそれほど高くないようだが、市民の交流スペースとして有効に活用されている。指定文化財として消防法や建築基準法の適用が除外されているが、利用頻度が低いことで、安全面はそれほど問題になっておらず、保存と活用が無理なく両立していると感じた。

視察報告書

平成３０年　４月２０日

府中市議会議長　様

会　派　名　市民クラブ

日　　時	平成２９年５月１６日（火曜日）
視　察　先	岩手県紫波町（オガール）
視察項目	公民連携事業・オガールプロジェクトについて
参　加　者	小川敏男　水田豊　土井基司
視察内容	公民連携事業・オガールプロジェクトの取り組みについて、府中市の活性化の施策の参考にするため、赴いた。事業の経緯と理念について、質問したところ、青森の中心市街地活性化の失敗例から学び、地域の実情にあわせた＝身の丈に合った開発を目指しているということだった。 事業の仕組みは、町有地に公共施設を整備し、それ以外の町有地を売却または賃貸し、その賃貸料などを公共施設などの整備費用に充てるというもので、当面、紫波中央駅前に公共施設と民間施設の立地による複合開発を進めており、役場や図書館は、民間施設との複合施設となっている。 **事業の概要** JR 紫波中央駅西側一帯の町有地 10.7ha を中心とした都市整備を図るため、町民や民開企業の意見を反映させて、平成 21 年（2009）3 月に「紫波町公民連携基本計画」を策定した。この計画に基づく紫波中央駅前都市整備事業を「オガールプロジェクト」と称している。「オガール」は、岩手県などで「成長する」ことを意味する「おがる」と、フランス語で「駅」を意味する「Gare」（ガール）を組み合わせた造語である。このエリアを出発点として紫波町が特続的に成長していく願いが込められている 計画面積；21.2ha　［町有地］.0.7ha 含む） 事業期間；第１期・交付金対象　平成 21 年４月～平成 26 年３月 概算事業費　紫波町公有分　59 億 1,000 万円（庁合整備 31 億円を含む） 民間活用想定面積;町有地 10.7ha のうち約 5.58ha
所　　感	「中心市街地活性化の失敗例から学ぶ」「身の丈に合った計画」という言葉が印象的だった。行政は華やかな成功例ばかりを取り上げがちだが、失敗例をしっかりと学ぶこと、分相応を意識することも重要だと改めて確信した。 オガールプロジェクトは、これから旧中心街の再活性化にとりくようだが、真価が問われるのはこれからだと思う。引き続き注視していきたい。

視察報告書

平成３０年　４月２０日

府中市議会議長　様

会　派　名　市民クラブ

日　　時	平成２９年５月１７日（水曜日）
視　察　先	秋田県大仙市　（市立大曲病院）
視察項目	地域医療・精神医療政策について
参　加　者	小川敏男　水田豊　土井基司
視察内容	湯が丘病院は老朽化が進み、特に第５病棟は築 45 年経っており建替えは急務だが、議論は進んでいない。また建替えが必要なのは第５病棟だけではなく、建替えにあたっては新基準に沿った計画、例えば個室の確保などが必要となり立地も考慮にいれなければならず、建設費用の工面をどうするかといった問題も山積している。現在湯が丘病院は、病院の将来像を確立し、それに見合った建替え計画を確立するためコンサル会社に調査を依頼している。 公立精神科病院のほとんどは、都道府県が経営しているおり、市立の精神科病院は大仙市の大曲病院と府中市の湯が丘病院の２つだけであり、経営・将来方針の参考とするため赴いた。 大曲病院はもともと１００床の精神科・神経科の病院だったが、認知症患者の増加を受け、現在、70 床の精神病棟と 50 床の認知症病棟を経営している。 平成 29 年３月に対象期間を平成 29 年度から 32 年度までとする「市立大曲病院　新改革プラン」を策定し、公営企業繰出基準内での一般会計の繰り出しと経常収支比率１００％を目指している。
所　　感	大曲病院は、日光の差し込む明るい病院で、認知症患者の入院スペースは特別養護老人ホームと変わらない印象だった。 県北の精神医療を担う湯が丘病院が、急増する認知症対策などの治療に役立つ病院としての機能を充実し、県や関係機関の協力を求めながら、建替え計画がスムーズに前進するよう期待したい。